

「土佐鷹」普及に向け各地区で説明会



平成 21 園芸年度の「土佐鷹」の普及に向け、管内 5 集出荷場で説明会を開いた。会はこれまでの農業振興センターが中心と説明するスタイルから産地として一体となり取り組む姿を農家に知ってもらうため、JA を前面に引き出し、園芸連、集出荷場、研究会ナス部会と連携して行った。参加農家総数は 133 名。会では今、なぜ「土佐鷹」への品種変更が必要なのかについて、市場の要望や所得向上対策などの点から説明、また、既に栽培をしている農家の声や現地視察で「土佐鷹」を参加農家に知ってもらった。芸西など目標面積を超える苗の注文があり成果も出てきている。

芸西村での土佐鷹現地検討会の開催



芸西村での現地検討会

芸西村では 7 戸の農家が土佐鷹ナスを栽培しており、定植前から月 1 回のペースで現地検討会を開催してきた。初期の樹づくりが大事であることから、灌水管理、整枝・摘葉、温度管理を中心とした内容とし、栽培への疑問点（摘葉・灌水等）を会の中で出してもらいながら進めてきた。また、他品種の栽培者に対してもナス部会でも栽培圃場を見てもらい、品質の良さや安定生産への理解が得られてきている。

次園芸年度は、14 戸（3 月 13 日現在）の生産者が土佐鷹の栽培を予定しており、栽培面積の大幅な拡大が期待される。

安芸地区土着天敵意見交換会を開催しました。



意見交換会で討議中

土着天敵利用の啓発・促進を目的に、安芸地区での土着天敵意見交換会を 3 月 17 日に安芸農業振興センターと JA 土佐あきの主催で開催した。参加者は生産者や関係機関を含め約 40 名ほどが集まった。発表内容は、「天敵の総論と最新情報について」農技センターの古味主任研究員が行い、その後安芸で土着天敵を使った防除に取り組んでいる 4 名の生産者が取り組み事例を発表した。またその後発表者をパネラーに意見交換を行い、土着天敵の取り組み方や地域で広めるための方向性などについて、参加者からさまざまな意見が出るなど、土着天敵利用について弾みがついた。

こうち型集落営農の推進



北川村久府付集落のリーダーは、３月１７日に集落営農推進協議会を開催し、こうち型集落営農について協議し取り組む事を決めた。この会の開催にあたっては、センターから地域のリーダーにこうち型集落営農を説明し「子や孫の代まで農業を続けられる集落のしくみづくり」を提案したところ、推進協議会を開催する事になり進みはじめた。また、４月上旬の集落の花見の会を機会にして、住民みんなに説明をし、具体的な話し合いのスタートを切る予定であり支援をしていく。

中芸地区ナス懇談会



地域単位でのまとまりを作ろうという目的で、小さな単位での懇談会を２ヶ月毎に５カ所で開催している。今月は今まで行っていた座談会をやめ、計画的に圃場を参加者とともに巡回する現地検討会とした。指導に当たっては営農指導員との週１回のミーティングでの農家選定と資料づくりを行い、指導の際、カーボン紙を使って、話した指導内容、状況の感想を残すようにした。なお、この裏には地域の栽培ごよみから抜き出したポイントを印刷しておいた。参加した農家から、実際どうするのがわかって参考になった。また、他の参加者からも貴重な意見が聞けたと好評であった。